



帯山小学校だより

No.8 (修学旅行 特別号) R5.10.16 文責 校長 西方 浩一

修学旅行に行ってきました！



先週、11日(水)から12日(木)に6年生の修学旅行を予定通り実施しました。今年度の修学旅行は快晴でした！また、参加者に大きな事故やケガ、活動に影響するような病気もなく、無事に全日程を終えることができました。

1日目は、7時30分からの出発式を終え、一路長崎市へ。城山小で被爆校舎や嘉代子桜を見て、平和公園に到着しました。写真撮影と平和集会を終え、フィールドワークで原爆落下中心地や山里小、如己堂、浦上天主堂などを見て回りました。原爆資料館では、被爆体験講話も聞き、平和の大切さを学びました。2日目は、6時に起床し、ハウステンボスへと向かいました。ハロウィン真っ只中。楽しい街並みでした。6年生にとって忘れられない修学旅行になったと思います。



感謝の気持ちを持つ

出発式では「感謝の気持ちをもつ」と話しました。まずは、友達。修学旅行は、友達と行くからこそ楽しいのです。次に、保護者。保護者の方々がお金だけでなくいろんな面で支えてくださいました。そして、先生。修学旅行の指導には、かなりの時間と労力をかけられました。さらには、バスの運転手さんやガイドさん、添乗員さん、カメラマンさん、現地のガイドさんや講師の方、ホテルの方、お土産屋さん、ハウステンボスのスタッフさんなどみなさんに感謝です。

解散式で「家に帰ったらおうちの方に思い出話をして『ありがとう』と伝えること」と話しました。きっと、実行してくれたことと思います。いかがでしょうか？

自己管理能力を鍛える

修学旅行の中で、名札がない、しおりがない、チケットをなくした等の声が聞かれました。また、荷物を置きっ放し、買ったお土産を忘れていく、中には、財布を置いたままトイレに行くなども見かけました。家では、おうちの方に管理してもらっているのかもしれませんが。もう6年生です。自分で自分を律し、一つでも多くのことを自己管理できるように鍛えてほしいと思いました。



10回目の引率

今回の長崎修学旅行が、私にとって通算10回目となりました。私が初めて引率した当時はハウステンボスもなく、ホテルに泊まり、バイキングで食事をするなんて想像もつきませんでした。

今回、修学旅行引率デビューをした職員が2人いましたが「気をつかいました。」と語っていました。子どもたち同様、生涯忘れられない思い出になったことと思います。

しかし、職員はよく働きます。出発の朝まだ暗いうちから学校にきて出欠を確認し、バスの車中でも常に子どもたちに気を配っています。見学地では、子どもたちに付き添ったり、見回ったり。ホテルでも、食事から入浴まで見とどけ、消灯を過ぎても各部屋を回り、起床の時には身支度を済ませ各部屋を指導しています。私が担任だった頃は、もっとのんびりしていたなと反省を込めて振り返ったところでした。